

可給態リン酸が多いほ場でのキャベツのリン酸減肥栽培

福島県農業総合センター 生産環境部 環境・作物栄養科

1 部門名

野菜－カンラン－施肥法

2 担当者

根本知明・佐藤睦人

3 要旨

近年の肥料原料費の高騰は農家の経営を圧迫しており、それに対応した減肥栽培技術の実用化が緊急の課題となっている。そこで、キャベツにおけるリン酸減肥の可能性を現地ほ場で確認したところ、非黒ボク土で可給態リン酸が50mg/100g(トルオーグ法)以上のは場及び黒ボク土で可給態リン酸が100mg/100g以上のは場では、リン酸を施用しなくても減収しない。

- (1) 非黒ボク土で可給態リン酸50mg/100g程度のは場では、リン酸を施肥しなくても秋作の結球重は慣行施肥と同じであった。(図1)
- (2) また、黒ボク土で可給態リン酸100mg/100g程度のは場でも、リン酸を施肥しなくても同一ほ場で春秋2作の結球重は慣行施肥と同じであった。(図1)
- (3) なお、リン酸の施肥量決定にあたっては、作付前の土壤中可給態リン酸値をトルオーグ法で求める必要がある。

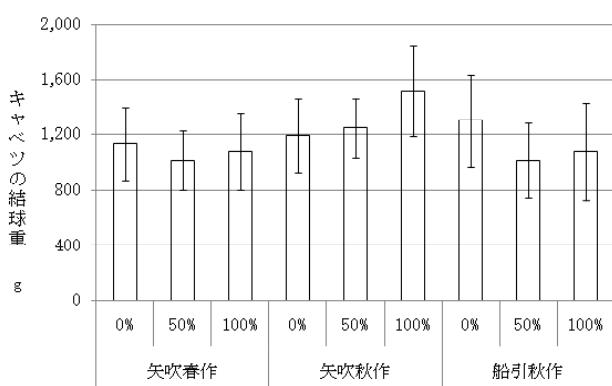


図1 異なるリン酸施用量で栽培したキャベツの結球重

注1 0%、50%、100%は、リン酸施肥量を示す。(100%は18.9kg(P₂O₅)

注2 Tukey法による検定で同一作の施肥量間に有意差無し。(p=0.05)

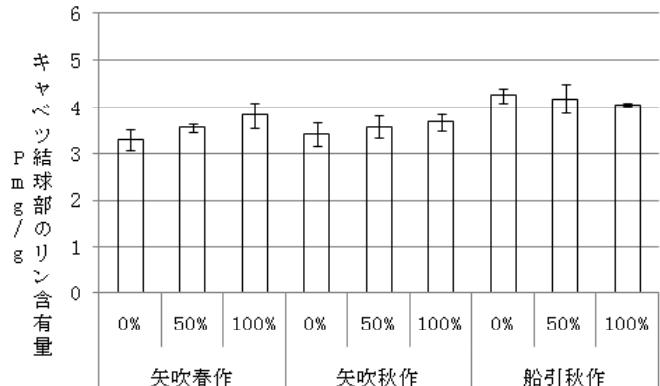


図2 異なるリン酸施用量で栽培したキャベツ結球部のリン含有量

注1 0%、50%、100%は、リン酸施肥量を示す。(100%は18.9kg(P₂O₅)

注2 Tukey法による検定で同一作の施肥量に有意差無し。(p=0.05)

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成21年度～22年度センター試験成績概要